

〔普及の現場から〕

東備地域における和牛水田放牧の取り組み

東備農業普及指導センター

1. はじめに～東備地域での和牛放牧

東備畜産研究会（会員17名、事務局：普及指導センター）では、平成16年度に県の「お試し放牧」を行ったのを契機に、17年度には研究会で電牧資材を整備し、18年度から耕畜連携による遊休水田での和牛放牧に取り組み、地域の景観保全と和牛繁殖経営のコスト低減を図ってきました。平成21年度からは「放牧適性和牛確保対策事業」を活用し、放牧地区も増えています。今年度も和気町と赤磐市の和牛農家2戸が水田放牧を行っており、放牧適性牛の導入も計画しています。（表1）

今回は最近の放牧関連技術の取り組みを紹介します。

（表1）東備地域の和牛水田放牧

（単位：ha、戸）

市町名	地区名	H18	H19	H20	H21	H22	H23計画
和気町	吉田	1.8	2.3	2.4	2.6	2.8	3.1
	清水	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8
	宇生	-	-	-	0.3	0.5	0.8
赤磐市	多賀	-	-	-	0.1	0.1	0.3
合計		2.5	3.0	3.2	3.8	4.2	5.0
実施戸数		1	1	1	3	3	2

2. 牧養力の向上対策～1年2作体系の導入

これまでは永年牧草を主体にイタリアンライグラスを追い播きしてきました。昨年からは夏場の草不足や「水田利活用自給力向上事業」に対応するため、冬作のイタリアンライグラスに加え、夏作に飼料ヒエ（青葉ミレットやシロビエ）や暖地型牧草（なつ乾草）を蹄耕法で栽培し1年2作体系にしています。今年もあいにく播種後に雨が少なく、初期生育がやや悪かったのですが、最近では良好な生育を示し、牛も好んで採食しています。



（写真）飼料ヒエ栽培田での放牧

3. 害虫対策～殺虫・忌避剤の利用

ダニ等寄生虫対策は、フルメトリン製剤（バイチコール）やイベルメクチン製剤（ノロメクチン等）を移牧や体測時にあわせて定期的に塗布しています。ハエ対策にはペルメトリン含有イヤータグ（ヤシマペルタグ）を入牧時に装着しています。ある程度の効果はありますが、装着した牛でもハエがたかっている牛もいます。また8～9月にはアブ対策も課題となっています。ペルメトリン乳剤（E T B乳剤等）の牛体散布は2～3日間は忌避効果が

あるようですが、捕殺トラップの設置も検討中です。

4. 牛の捕獲対策～携帯飼料の作成・給与

牛の管理や牧区の移動時に捕獲が困難な牛は、これまでは「移動式スタンション」を作製し、それで捕獲していましたが、昨年度から「放牧牛用携帯飼料～愛称『モ～ッ、チョットコ』(牛よ、ちょっと来い!)」(山口県農林総合技術センター開発、実用新案)を作成しています。これは、米ぬかに糖蜜(または味噌)と小麦粉、水少々を混ぜて練り、成形して乾燥させたもので、牛の嗜好性が非常に良いため手渡しでやることができ、牛が簡単に捕獲できるようになりました。放牧前から牛に給与し味を覚えさせておくことがポイントです。夏場には塩分補給に味噌味がいいようです。作り方は簡単なので一度試してみてください。



(写真) イヤータグ装着牛



(写真) 移動式スタンション

放牧牛用携帯飼料の作り方

(山口県農林総合技術センター畜産技術部監修)

(1) 材料 (約 83 個分＝約 30g/個)

材料名	分量	購入価格
米ぬか	1.0kg	30円
糖蜜 (または味噌)	1.0kg	47円
小麦粉 (末粉)	0.5kg	17円
計	2.5kg	94円

糖蜜味 1 個あたり単価＝約 1.13 円

(2) 作り方

①タライやバケツに材料を入れ、適量の水を加えて耳たぶぐらいの硬さに練る。



<p>②材料をゴルフボールより少し大きいぐらいに丸める。</p>	
<p>③材料を8cm程度の棒状に伸ばし、手の平と指で成形する（にぎり寿司のように）。</p>	
<p>④約2週間自然乾燥または30℃で3日間風乾燥させる。カビの発生に注意！（できたての生で与えている方もいます）</p>	
<p>⑤完成。できれば乾燥剤を入れた密閉容器で保管する。</p>	
<p>⑥放牧牛に手渡しで給与する。</p>	

5. おわりに～今後の拡大に向けて

今年度から「農業者戸別所得補償制度」が実施され、耕畜連携による水田放牧の要望が増加してくることが予想される一方、輸入飼料価格の高騰の中、低コスト化を図りたい和牛農家の需要も拡大するものと思われます。

今後は放牧適性牛の導入・確保や、周年放牧体系の確立等技術改善、新たな耕畜のマッチングと推進体制の整備を図っていく必要があると思われます。

放牧推進体制

(H21年度～放牧適性和牛確保対策事業)

